

A:十分に成果があった B:成果があった C:少しの成果があった D:成果がなかった

羅 針 盤			結 果	
	評価項目	具体的数値項目	評価	改善策 等
I 保護者との連携	1 保護者への情報提供	①「学校の様子や子供の様子がよく分かる」と答える保護者が80%以上である。	B (84%)	○オクレンジャーやホームページによる情報提供を積極的に進めるとともに、学級の様子や子どもたちが学んでいる姿が伝わる学校だより・学級だよりの発信に努めます。
	2 連携のための環境づくり	②学校の諸行事に参加している保護者が80%以上である。	A (98%)	○期日にゆとりをもって行事等のお知らせをお届けできるようにし、日程の配慮や参加環境の整備など、保護者の方々が学校行事に参加しやすいよう努めます。
	3 保護者への対応	③「学校は、日頃から連絡や相談をしっかりと聞く姿勢をもっている」と答える保護者が80%以上である。	B (89%)	○保護者の方々のお話に確実に耳を傾け、常に迅速な情報提供を心掛け、保護者の皆様が安心して連絡や相談ができる学校づくりに努めます。
II 確かな学力	4 分かる授業	④「学校の授業がよく分かる」と答える児童が80%以上である。	A (95%)	○各教科のねらいを踏まえたICTの効果的・効率的な活用を行いつつ、子どもたちが意欲をもてるような授業づくりを進め、自ら考えたり、対話を心掛けたりすることができる学習機会の充実に努めます。
	5 基礎・基本の定着	⑤教科の基礎・基本が身に付いている児童が80%以上である。	A (98%)	○聞くこと、話すこと、思考を働かせることがよくできる学習の過程を常に意識すると共に、習熟の状況に応じた学びを十分に進めることができる授業実践に努めます。
	6 評価	⑥「児童の学力や努力を適切に評価し、その結果を生かしている」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○授業ごとに、子どもたちと学習の「めあて」を共有し、分かりやすく意欲をもてる学習課題のもとで、子どもたちが学習の成果を自ら振り返ることができる授業を進めます。
	7 学習習慣	⑦「宿題や自主学習、読書など、家で毎日勉強をしている。」と答える児童が80%以上である。	A (93%)	○家庭での学習を次の授業に効果的に生かすことができる授業づくりを進め、家庭学習と授業とのつながりを大切に、保護者との連携を図り、家庭での学習習慣の確立に努めます。
III 豊かな心	8 挨拶・言葉づかい	⑧進んであいさつや返事ができる児童が80%以上である。	A (92%)	○教職員自ら積極的に声を掛けたり子ども同士の挨拶の励行に努めたりし、子どもたちが気持ちよく挨拶や返事ができる明るい学校づくりを進めます。
		⑨時や場・相手に応じた適切な言葉遣いができる児童が80%以上である。	A (95%)	○授業中における教員が子どもたちに掛ける言葉遣いに配慮したり、指導・助言を行ったりするとともに、保護者との連携を図り、学校と家庭の中で時や場・相手に応じた適切な言葉遣いについて考えさせる機会を大切にします。
	9 いじめのない温かな人間関係	⑩「学校に来るのが楽しい」と答える児童が80%以上である。	B (85%)	○学校の中で楽しく毎日過ごすことができる関係づくりを進めるとともに、子どもたちに分かる授業の提供に努め、一人一人のやりがいや自己肯定感を高めるられるようにします。
		⑪いじめの発生予防に努め、いじめの解消率が100%である。	C (78%)	○学校全体でいじめについて考え、いじめをしない、許さない心や行動を身に付けられるよう努めます。 ○子どもたち一人一人の悩みや不安を慎重且つ丁寧に聞き取り、いじめの早期発見・早期解決に努めます。
		⑫相手の立場や気持ちを考えた親切な言動がとれる児童が80%以上である。	A (94%)	○学校生活の様々な場面を生かして、相手のことを意識したり考えたりする中で思いやりのある行動が取れる子どもたちを育てるために必要な学習の充実に努めます。

A:十分に成果があった B:成果があった C:少しの成果があった D:成果がなかった

羅 針 盤			結 果	
	評価項目	具体的数値項目	評価	改善策 等
III 豊かな心	10 学校や家庭のルール	⑬学校のきまりや約束を守って生活している児童が80%以上である。	A (98%)	○きまりや約束を守ることの大切さを学ぶ機会を充実させ、子どもたちが自分の行動をふり返り、きまりや約束を守れた経験を積み重ねることができるよう努めます。
		⑭「家の手伝いをしたり、家族との時間を大切にしたりしている。」と答える児童が80%以上である。	A (93%)	○家事・手伝いや家庭で過ごす時間を大切にすることを励行するとともに、家庭での約束事について親子で話しができる機会を作れるように努めます。
		⑮「児童への共感的な理解のもとに、間違っただ言動には、毅然とした態度で指導している。」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○間違っただ言動について子どもたち自身の気付きを尊重し、よりよい言動について教職員が子どもたちと共に考え確かめ合える指導を心掛けます。
IV 健康・体力	11 基本的生活習慣（家庭教育）	⑯「毎日、しっかりと朝食を食べて登校している」と答える児童が80%以上である。	A (93%)	○給食指導や学級活動などを通して、食の大切さについて学習する機会を大切にし、食生活を通じた健康な生活習慣や体づくりについて学べるよう努めます。
		⑰「毎日、早寝・早起きをしている」と答える児童が80%以上である。	B (81%)	○毎朝の健康調査を通して、子どもたちがその時の健康状態を自ら確かめる習慣をつくとともに、健康的な生活を送ることの大切さを意識する学習の機会充実に努めます。
	12 体づくり	⑱「毎日、体を動かして遊んだり、運動したりしている」と答える児童が80%以上である。	A (94%)	○体育の授業や業間の体育的活動での体づくりを通して、体を動かすことの大切さに気付き、楽しく運動できる習慣づくりを推し進め、体育好きな子どもたちの育成に努めます。
V 安全確保・施設設備	13 学校の施設設備	⑲「毎月学校施設の安全点検を行い、課題のある箇所を確認し、適切な処置をしている」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○職員による毎月の安全点検を徹底し、課題が見つかった際には早急に安全対策を講じるなど共に、子どもたちが安心して毎日を過ごすことができる学校管理に努めます。
	14 学校の安全対策	⑳「児童が自分の安全を確保するための指導を徹底し、非常事態を想定した実効性のある訓練が行えている」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○学期1回以上の訓練を計画的に実施し、訓練状況をもとに課題に応じたマニュアルの見直しを行うと共に、有事の際に子どもたちが安全に避難行動をとることができるようにします。
	15 安全対策の連携	㉑「学校は、子供たちが安全に登下校できるように、保護者や地域と協力して取り組んでいる」と答える保護者が80%以上である。	A (91%)	○通学路における危険箇所を把握するために、定期的に保護者、地域の方々のご意見をお聞きし、子どもたちへの注意喚起と対策の徹底を進め、解消に向けて関係機関へ働き掛け協力を仰ぎます。
VI 進路・生き方	16 夢や希望	㉒「将来への夢や希望をもっている」と答える児童が80%以上である。	B (88%)	○発達段階に応じた様々な体験を通して、自ら考えたり判断したりし、行動する学びを大切にすることで、目標をもって生活する習慣を身に付けることで、自分から思い描く未来・希望を大切にできる児童の育成に努めます。
		㉓「学校は、児童が家族と将来への夢や希望について話す機会を設けている」と答える保護者が80%以上である。	C (64%)	○担任より保護者へキャリア教育の重要性に触れ、家庭と学校が一体となり、子どもたちのキャリア発達を支援していきます。 ○キャリア・パスポートの定期的な持ち帰りを確実にし、お子さんの考えや目標としていることを保護者の方々にご覧いただき、お子さんと将来の夢や希望について話す機会を積極的に設けます。

A:十分に成果があった B:成果があった C:少しの成果があった D:成果がなかった

羅 針 盤		結 果		
評価項目	具体的数値項目	評価	改善策 等	
VII 組織運営	17 教職員マネジメント	①「学校教育目標の達成に向け、管理職・教職員が一体になって努力している」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○学校経営の方針を明確かつ端的に示し、達成目標を常に教職員間で共有することで、一体となって課題の解決や目標の達成度を実感できるようにする。
		②日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえる職場の人間関係づくりに努めている職員が80%以上である。	A (100%)	○お互いに声を掛け合ったり、全職員が気兼ねなく対話でできたりする職場内の相互扶助や切磋琢磨しあえる関係を常に醸成する環境を整える。
		④「職員会議は、校長の運営方針をふまえた情報交換や課題検討の場として機能している」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○議題を明確にし、協議の方向性を明らかにすることで、限られた時間を有効に使い、教職員全体が協議結果に基づいて行動できる決議を得られるように努める。
		⑤「PDCAサイクルを確立して学校評価を行い、改善策を具体化している」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○適切な具体目標を定め、明確な方針を示すことで、行動と評価の一体化を進め、的確な評価に基づいた改善策を示したり、必要に応じた協議の場を設定したりする。
		⑥「校務分掌が適切に組織され、業務の効率化や負担の軽減が成されている」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○分掌のもつ役割を明確にし、児童の教育活動をより活発に効果的に行うために、各分掌に与えられた目的を達成するため、職員全体がチームとして機能できるようにする。
		⑦「校内服務規律委員会を定期的に開催し、常に教職員の服務規律確保に努めている」と答える職員が80%である。	A (100%)	○規律確保行動計画に基づく具体目標の達成に向けて、服務規律リーダーを中心に研修や振り返りを進め、職務に専念し安心して職責を果たせる職員集団を形成する。
18 教育計画	⑧「年間指導計画の作成と見直しをし、これに基づいて取り組んでいる」と答える職員が80%である。	A (100%)	○年間指導計画に基づいた指導を進める中で、修正や改善の必要が認められた内容については、適宜、朱書き等の書き込みを行い、年間を通じて、点検・見直しを進める。	
19 研修	⑨「校内研修は、教師の資質向上と授業改善に結びついている」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○日々の授業実践に生きる研修を実施し、児童への学習効果が見られる指導を実現できるようにする。 ○ICTの効果的・効率的な活用を通して、研修主題に掲げる児童の育成に努める。	
20 文書管理	⑩「各種文書・データ等は、分掌や担当毎に適切に管理されている」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○職員サーバーの整理を進めると共に、共有ドライブを便宜活用し、必要な情報が容易に検索できるように、各分掌ごとにフォルダー内の整理・整頓を進める。	
21 学校支援センター	⑬「教育活動の必要な場面で、地域の教育力を効果的に活用している」と答える職員が80%以上である。	A (100%)	○地域コーディネーターと協力して、地域人材や地域の教育資源の活用場面を整理し、学校・地域・家庭が三位一体となる教育活動を推進し、コミュニティスクールの機能をより高める。	

※自己評価欄に記載した数値は、肯定的な評価(調査結果4・3)の割合です。